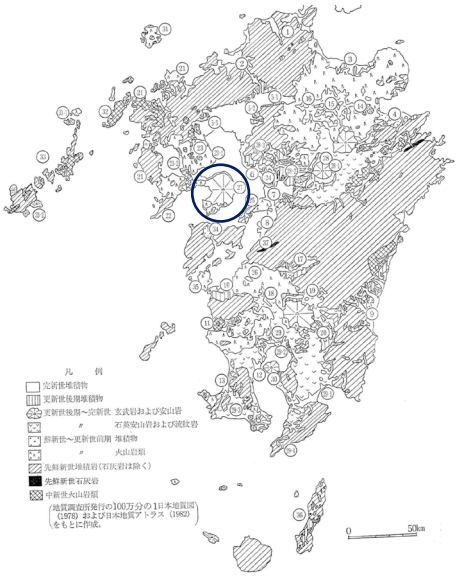
27.雲仙山麓



地形・地質

雲仙火山は島原半島の中央部にあり，周辺になだらかな火山山麓が広がり，半島の南部には標高 200～300m の丘陵地帯（口之津丘陵）があります。半島中央部を東西方向に走る断層地形があり，落ち込んだ部分を雲仙地溝帯と呼んでいます。

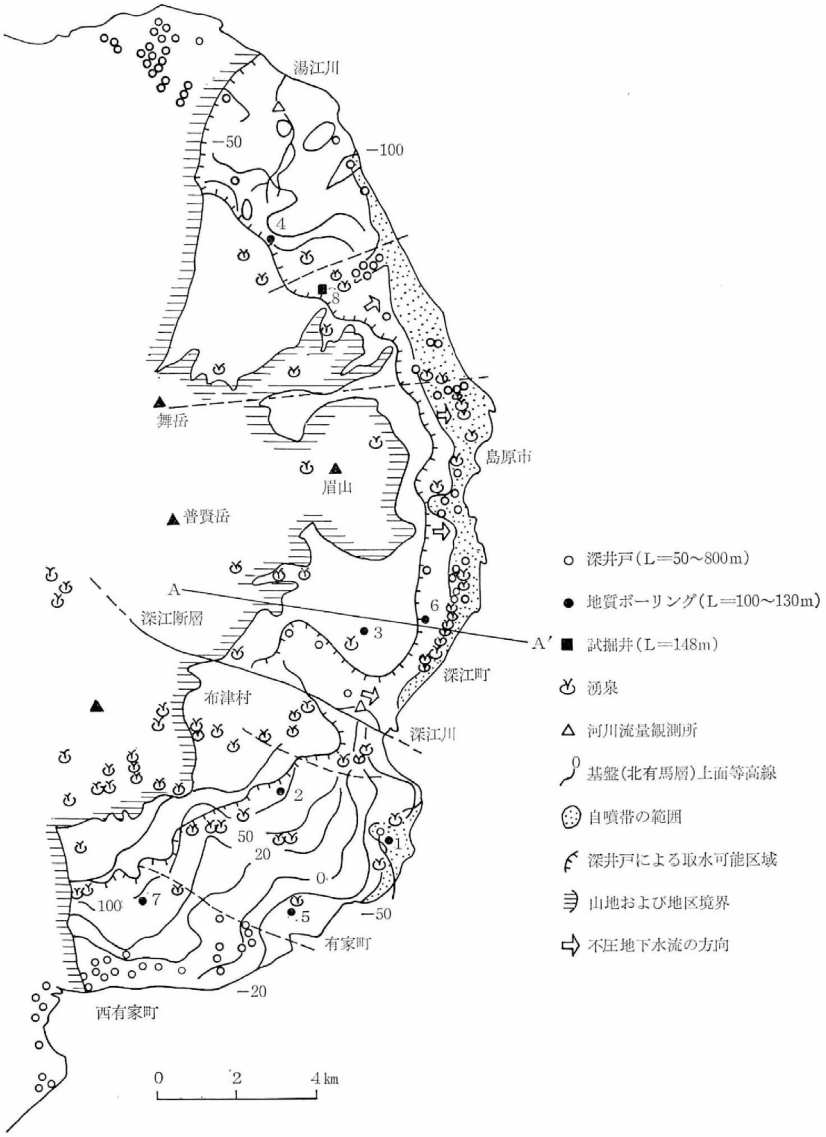
雲仙山麓水文地質層序表

時代		柱状図	名称	地層名	火山活動	地形面	地下水
完新世	F_4		表土（10～20cm）	普賢	普賢期火山活動（野岳，国見岳，普賢岳）	新扇状地 旧扇状地	↑●
	F_3		灰褐色火山灰（40cm±）				
			黒色火山灰層（40cm）	黒色火山灰層			
	F_2		淡褐色火山灰層（40cm）				
	F_1		暗褐色粘土質火山灰（50cm）				
更新世	後期		褐色ローム（60cm）	三会ローム層	矢岳？	低位段丘面 10～20m	
			火山砂層（30cm）				
			赤褐色ローム（100cm）	大三東ローム層	九千部期末寄生火山活動（舞岳，矢岳）	中位段丘（下位）面 20～30m	
			オレンジ色浮石層（150cm±）				
			浮石質凝灰角礫岩				
			浮石流（粘土質）	八女粘土層			
	中期		赤色土	吾妻層	九千部期火山活動（九千部岳，高岩山）	中位段丘（上位）面	↑●
			凝灰角礫岩質砕屑流（くさり礫）（3～10m）				
			一部水成層				
			茶褐色泥質ローム層	瑞穂ローム層	高岳期火山活動（高岳，絹笠川）		
			上部は角礫凝灰岩質火山砕屑岩層	竜石層		高位段丘面	↑●
			中，下部は凝灰質シルト，砂，礫の互層（50～200m）		雲仙基底凝灰角礫岩		↑●
	前期		シルト，砂礫の互層	口之津層群	南島原安山岩類 玄武岩		↑●
			玄武岩，安山岩，軽石流をはさむ				
			下部は砂礫層				

↑● 自由地下水　↑● 被圧地下水

地下水

島原市街地や深江扇状地末端の湧水群は，扇状地砂礫層や雲仙火山噴出物，その崩壊物中から湧出しています。口之津丘陵では口之津層群が被圧帯水層になり，雲仙火山噴出物中の地下水は，火山山麓を形成する竜石層やその相当層に賦存しています。



雲仙火山東麓の水文地質図

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）